

「ザ・シクリット・ライフ・オブ・ゲイシャ」というある記録映画

により「芸者」の範囲における変化

## 序論

日本においての文化の一つは「芸者」である。「芸者」は江戸時代

より存在していた。「芸者」は男を楽しませる団体であり、商人を

冗談で楽しませ、侍たちを売春塾で接客する。

「芸者」そのものは日本の女性の中にある美しさの印象。竹より

作られた唐傘をさしながら、着物を着、顔が白くされ、眉にラインが薄く

引かれ、その上、唇が素敵に見られるように、色を付けられ、髪の毛が

桃割れの形に梳かれた。「芸者」は必ず日本の女性の伝統的な特徴を

持つ。第2次世界大戦において「芸者」は日本の戦士を戦争に行く前に

接客する仕事を与えられた。この戦士は「神風隊」と呼

ばれていた。このことは、その戦士たちに応援を与えるつもりで行

われた。

「芸者」になる娘は普通貧しい家族から由来する。その娘たちは

普通「お上さん」という「芸者」の先任に募集された。「置屋

」において「芸者」になる娘たちは「お母さん」という「芸者」の夫人

に5年間に教わっている。「お母さん」は「芸者」になるその娘たちを

教育する「置屋」の管理人である。

序論の第1章の内容は問題の背景であり、問題の制限が「芸者」の

範囲における変化について調査する。外国人よりの客観的な評価の

影響及び日本に入るほかの文化の影響により、その変化が発生する。

## 本論

理論の基本の第2章は「芸者」の歴史について説明し、「芸者」が

始めて存在する時期は江戸時代（1603-1867）よりである。「芸者」の

仕込みは「仕込み」の段階より、「見習い」の段階、それから最後に「

芸者」のライブスタイルである。この章においても1868に起こった鳥羽

・伏見の戦いについての内容もある。「芸者」は反乱者たちを手伝

い、その戦いに参加する。「芸者」もその時代の政府と強い関係を持

っていたため、強い位置を持っていた。このことは「ザ・シクリット・

ライフ・オフ・ゲイシャ」という記録映画に映っているとおりである。

第3章は分析であり、筆者が「ザ・シクリット・ライフ・オフ・

ゲイシャ」という映画により変化を起こす事柄について分析で説明

するつもりである。分析材料は「温泉芸者」、「パンク芸者」、及び「

エグゼクティブ芸者」である。「温泉芸者」は「芸者」の売春営業を

行う「芸者」である。この「芸者」最も低いレベルの「芸者」団体と

認識されるため、より価値がないと思われる。「パンク芸者」は筆者

によるとイメージを変えたい「花ちゃん」の反抗である。このことは「花

ちゃん」が欧米よりのライブスタイル、特にパンクのライブスタイルの

影響を受けたためである。このパンクのライブスタイルは筆者が知

っている通りに良い暮らしに逆らうライブスタイルであり、この

ライブスタイルで暮らす人たちは普通良くないイメージと同一と思

われている。「エグゼクティブ芸者」は「芸者」が常連客の近代的な

趣味を満たしたいため誕生する「芸者」である。そのため、この「芸者

」はバーを設立する。そのバーにおいて雰囲気<sup>ふんいき</sup>が少し相違<sup>そうい</sup>

がある。それは「芸者」<sup>げいしや</sup>が「芸者」<sup>げいしや</sup>の普通な服装<sup>ふつう ふくそう</sup>

をしていないことであり、その芸者<sup>げいしや</sup>たちはより質素な服装<sup>しつそ ふくそう</sup>で登場<sup>とうじょう</sup>

する。しかし、筆者<sup>ひつしや</sup>によりこの「芸者」<sup>げいしや</sup>たちは既に<sup>すで</sup>上級<sup>じょうきゅう</sup>の「芸者」<sup>げいしや</sup>ある

いは既にエグゼクティブ<sup>えぐぜくていぶ</sup>の芸者<sup>げいしや</sup>である。

## けつろん 結論

第4章<sup>だいしやう</sup>の内容<sup>ないよう</sup>は結論<sup>けつろん</sup>である。筆者<sup>ひつしや</sup>が出した結論<sup>だ</sup>は欧米<sup>けつろん</sup>の文化<sup>おうべい</sup>が日本<sup>ぶんか</sup>にほん

の様々な社会階層<sup>さまざま</sup>に入ることにより、<sup>しゃかいかいそう</sup>「芸者」<sup>はい</sup>の範囲<sup>げいしや</sup>にも影響<sup>はんい</sup>を受<sup>えいきよう</sup>う

けることが可能<sup>かのう</sup>であること回避<sup>かいひ</sup>できない。しかし、筆者<sup>ひつしや</sup>により、この文化<sup>ぶんか</sup>

が良く保存<sup>よ</sup>できるかどうかはその文化<sup>ほぞん</sup>、特に文化<sup>ぶんか</sup>の世界<sup>とく</sup>及び<sup>ぶんか</sup>「芸者」<sup>せかいおよ</sup>の<sup>げいしや</sup>

芸術<sup>げいじゆつ</sup>そのもの<sup>おこな</sup>を行うものとしての人物<sup>じんぶつ</sup>の元<sup>もと</sup>に戻る。なぜならば、その<sup>もど</sup>

人物<sup>じんぶつ</sup>たちはこの文化<sup>ぶんか</sup>が進歩<sup>しんぽ</sup>に良く進行<sup>よ</sup>し、欧米<sup>しんこう</sup>の影響<sup>おうべい</sup>、特に良くない<sup>えいきよう</sup>

方向<sup>ほうこう</sup>に導<sup>みちび</sup>く影響<sup>えいきよう</sup>よりこの文化<sup>ぶんか</sup>はどのような形<sup>かたち</sup>でも守<sup>まも</sup>る基本<sup>きほん</sup>あるいは

こんぽん  
根本<sup>こんぽん</sup>である。

「芸者」は最初から現代にかけて常連客にとって楽しませる存在  
であり、自分の生活を支える者にとって要求を満たす存在  
である。しかし、そのことに関わり、非常に閉鎖的といえる日本のこの  
文化に変化が発生しても、「芸者」は江戸時代から現代にかけて存在する  
正真正銘の楽しませるものである。

# DAFTAR ISI

<b>Kata pengantar .....</b>	<b>i</b>
<b>Daftar isi .....</b>	<b>iv</b>
<b>Bab I pendahuluan</b>	
<b>Perubahan-perubahan dalam ruang lingkup Geisha</b>	
1.1 Latar Belakang Masalah .....	1
1.2 Pembatasan masalah .....	4
1.3 Tujuan penelitian .....	4
1.4 Metodologi penelitian .....	4
1.5 Organisasi penulisan .....	10
<b>Bab II Landasan Teori</b>	
<b>Sejarah,tahap pelatihan,dan gaya hidup Geisha</b>	
2.1 Sejarah Geisha .....	11
2.2 Tahap Pelatihan Geisha .....	17
2.2.1 Tahap Shikomi .....	18
2.2.2 Tahap Minarai .....	18
2.2.3 Tahap Maiko .....	19
2.2.4 Tahap geisha .....	20
2.3 Gaya Hidup Geisha .....	21

### **Bab III Analisis**

#### **Hot Spring Geisha.Punk Geisha,Geisha Eksekutif**

3.1 Hot spring Geisha .....	28
3.2 Punk Geisha .....	32
3.3 Geisha Eksekutif .....	35

#### **Bab IV Kesimpulan .....41**

#### **Daftar Pustaka .....45**

#### **Sinopsis**

#### **Riwayat Hidup Penulis**